

取組事例の紹介（信州大学）

令和7年2月12日

地域共創流域治水

JST「流域治水を核とする復興を起点とした持続社会」のご紹介



天竜川上流流域治水協議会

2025.02.12

政金裕太

信州大学農学部造園学研究室研究員/ランドスケープデザイナー

政金裕太（まさかねゆうた）

研究員 / ランドスケープデザイナー

神奈川県横浜市出身 長野県南箕輪村在住

2022. 04 信州大学農学部 研究員

2020. 08 Green Wise, 東京 入社

2019. 10 Asakura Robinson, Houston, TX 入社

2019. 05 Master of Landscape Architecture,
Louisiana State University 修了

2015. 03 青山学院大学総合文化政策学部 卒業



目次

1. 地域共創流域治水プロジェクト概要
2. 研究課題ごとの紹介
3. 流域治水スタディツアー



1. 地域共創流域治水プロジェクト概要



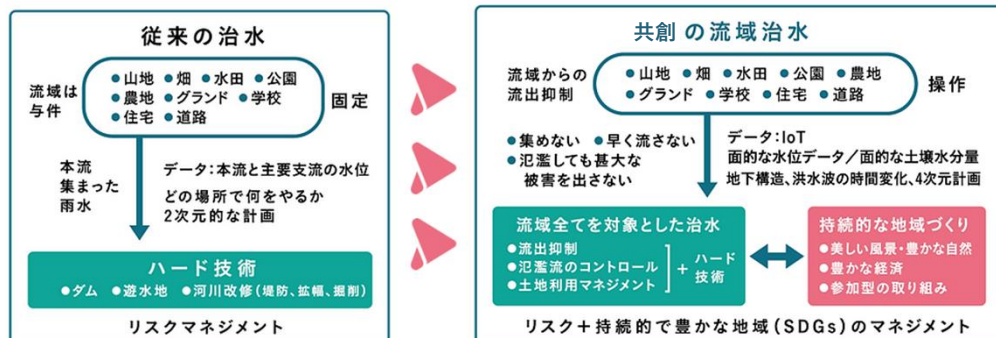


流域治水を核とした復興を起点とする持続社会

日本科学技術振興機構（JST）地域共創拠点形成支援プログラム（2021年11月～）

Vision

共創の流域治水を核とした大災害後も安全・安心に生き続けられ豊かな環境と若者が残り集う
持続可能な地域の実現



©熊本県立大学緑の流域治水研究室

vision

共創の流域治水を核とした大災害後も安全・安心に生き続けられ豊かな環境と若者が残り集う持続可能な地域の実現



2. 研究課題ごとの紹介



課題0 「地域共創流域治水の総合化と波及」

課題0では、各課題で開発された技術や概念をとりまとめ、国内外へ普及していくことを目標にしている。



課題1 「流域治水技術の開発」

課題1では、雨水の流出を遅らせる技術、流出抑制、氾濫流のコントロールなどの雨水をマネジメントする様々な技術開発を研究している。



©熊本県立大学島谷幸宏特別教授資料より

課題2 「流域治水×環境再生/森林マネジメント」

課題2では、流域治水と生物多様性に寄与する放棄地を湿地として再生する取組や、森林のもつ保水能力を維持する森林マネジメント方法について研究する。



課題3 「流域治水×IoT/DX」

課題3では、最新技術を使用した流域治水に寄与するシステムの開発を研究している。安価な既製品を組み合わせ河川カメラやセンサーを開発し、設置個所の意思決定プロセスまでを仕組みとして研究している。



課題4 「流域治水×産業創成」

課題4では、課題5で構築されたパートナーシップをもとに、他課題で研究開発された技術やコンテンツと地域資源を掛け合わせ、新たな産業を創る研究開発をすることによって地域のGRP向上を目的にしている。



課題5 「パートナーシップによる推進手法」

課題5では、地域の企業や団体とパートナーシップを組み、流域治水の取組を推進するための有効な手段を研究開発する。



©熊本県立大学緑の流域治水研究室



3. 流域治水スタディツアーについて



流域治水スタディツアー紹介動画



自然共生サイト（流域治水 x 生物多様性）



田んぼダム（流域治水 x 農業）





雨庭（流域治水 x 市民参加 x まちなか x ガーデニング）



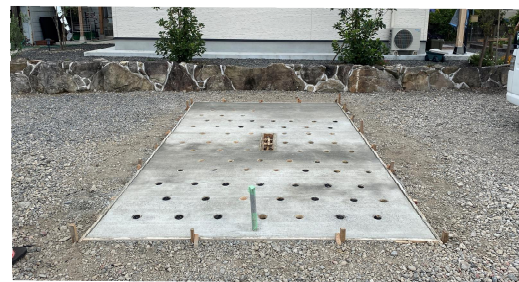
森林管理（流域治水 x 森林）



課題4 その他の主な取り組み

- 地域産材利用の促進

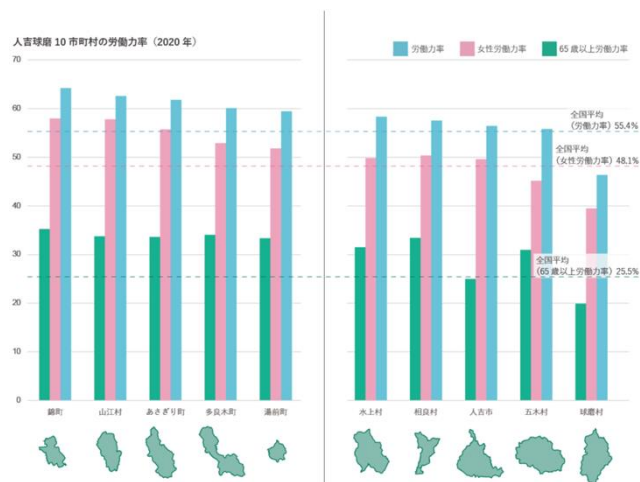
森林が8割以上で林業が盛んな球磨川流域で、地域内の木材などを積極的に流域治水に使っていこうという取組。放置竹林の竹材を使った竹筋コンクリートの施工実験、地域産木材を使った「雨庭プランター」の施工など実施済みの取組もあるが、今後は土木工事に木材を積極的に使えないか検討中。



課題4 その他の主な取り組み

・ 流域内の労働力調査

流域治水を進めるには、流域治水の取組を支える担い手が必要である。地域内に流域治水に関連する仕事をつくっていくために、域内にどれくらいの労働のポテンシャルがあるのかの調査を始めた。



本資料は、JST 共創の場形成支援プログラムJPMJPF2109 の支援を受け作成したものです。

